

蒲原・由比・興津・小島両河内・庵原

静岡市清水商工会 地域経済動向分析

RESASと静岡市統計で見る、5地区の経営環境

令和8年度
静岡市清水商工会

図表の直後に『分かること』と『経営に生かすこと』を示します

目的

人口・産業・人の動き・地域経済を確認し、限られた人・時間・資金をどこへ使うか考える資料です。

対象

蒲原・由比・興津・小島
両河内・庵原の5地区です。
人口・世帯は町名別統計を独自集計しました。

章立て

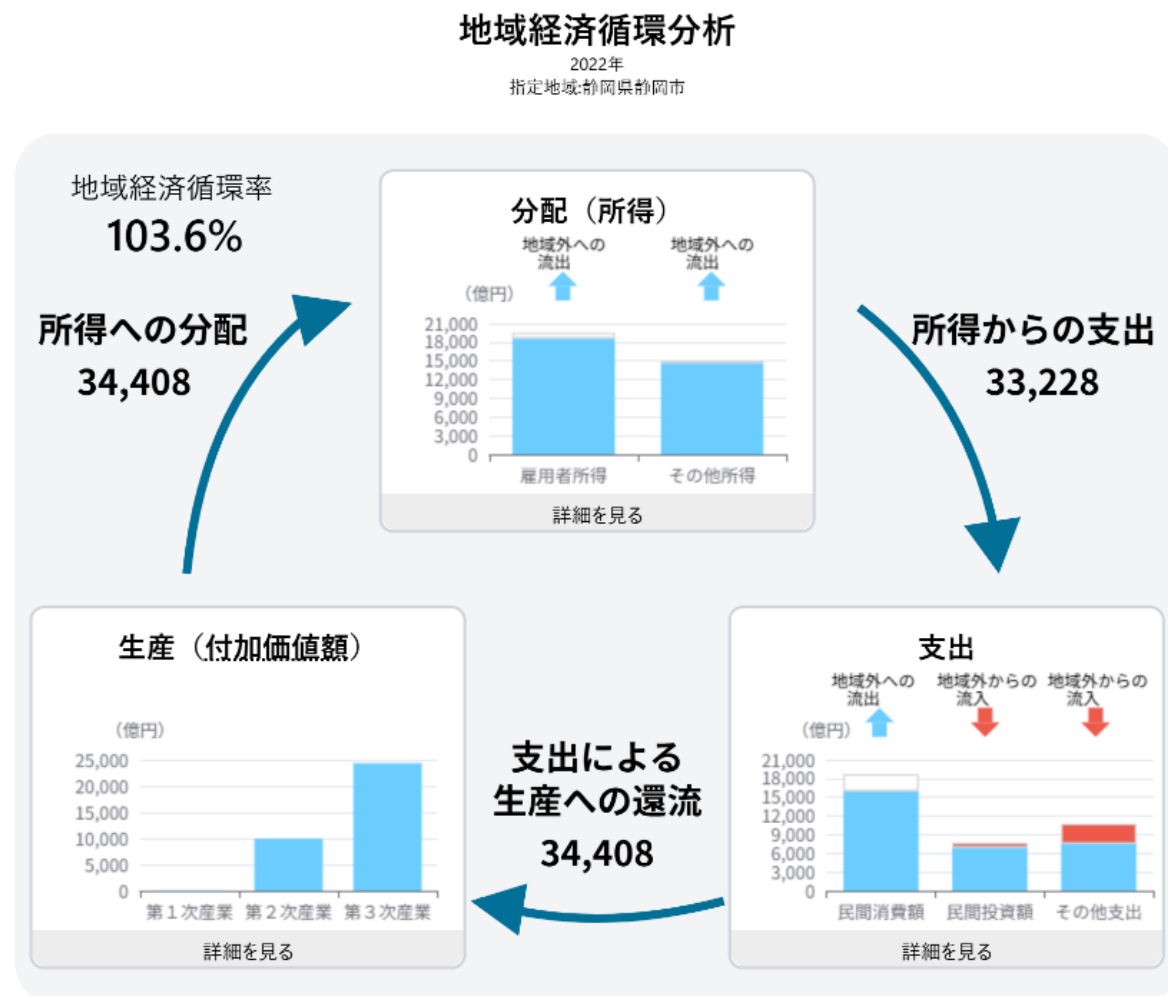
- 1 地域経済循環マップ
- 2 地域経済循環
- 3 人口
- 4 産業構造
- 5 観光地（滞留人口）
- 6 マーケティング
- 7 まとめ

人口・世帯：5地区の実数（2025年9月30日現在）
将来人口・産業：清水区の参考値 / 地域経済循環：静岡市の参考値
2012年9月以降の住民基本台帳人口には外国人を含みます。

1 地域経済循環マップ | 静岡市では、地域で生まれたお金が循環しています

3

地域経済循環率は103.6%。生産→分配→支出の流れを一枚で確認します



この図の見方

生産：地域で生まれた価値
分配：給料や会社の所得
支出：買物や設備投資

3つの間をお金が回るほど、
地域内の取引が増えます。

経営に生かすには

売上先、仕入先、外注先、投資先を地域内外に分けて確認します。
地域内の取引を増やしつつ、
地域外から売上を得る方法も考えます。

2 地域経済循環 | 生産・分配・支出を数値で確認します

4

静岡市全体の参考値です。管轄5地区だけの数値ではありません

生産 | 地域で生まれた価値

1人当たり付加価値額

第1次産業 147万円

第2次産業 1,169万円

第3次産業 941万円

第2次・第3次産業が地域の価値づくりを支えています。

分配 | 給料や会社の所得

1人当たり所得

雇用者所得 272万円

その他所得 214万円

生み出した価値が、給料や会社の利益などに分かります。

支出 | 買物や投資の流れ

支出流出入率

民間消費 - 14.6%

民間投資 + 10.6%

その他支出 + 41.7%

民間消費は地域外へ流出する方向です。

経営への活用

- ① 地域外から得る売上を増やす ② 仕入・外注の地域内連携を探す ③ 利益を設備・IT・人材・事業承継へ回す
まずは自社の売上先・支払先を地域内外に分けると、お金の流れが見えます。

3 人口 | 5地区の人口は43,786人、世帯数は20,006世帯です

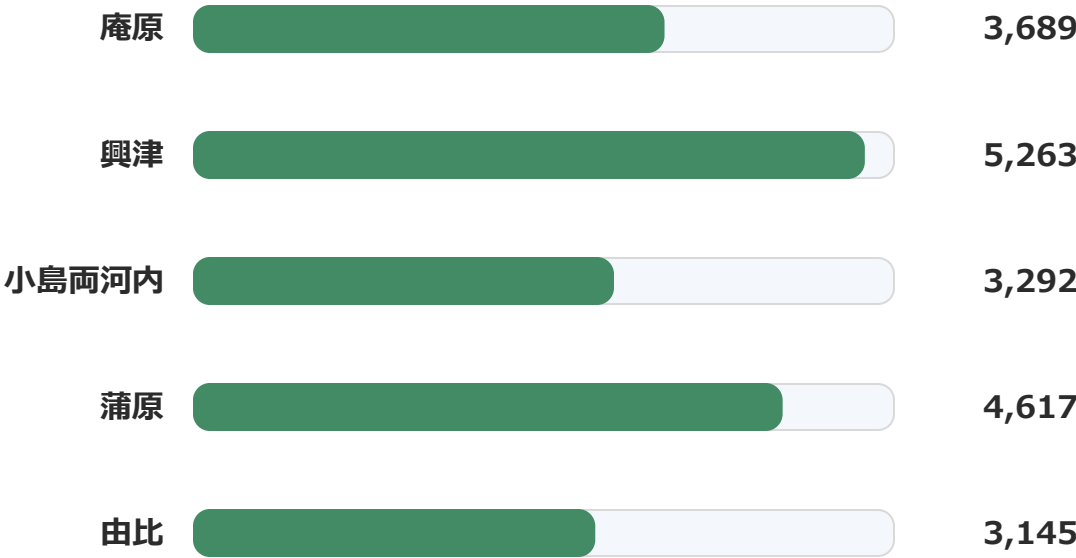
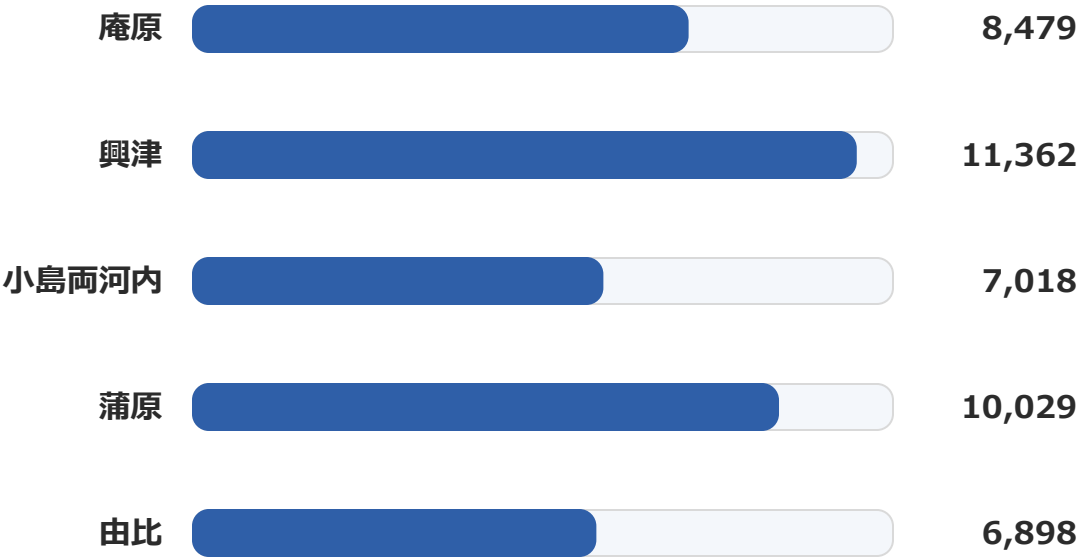
人口・世帯とも興津が最も多く、次いで蒲原、庵原の順です

5地区人口 43,786人

5地区世帯 20,006世帯

人口（人）

世帯数（世帯）



構成比：興津25.9%、蒲原22.9%、庵原19.4%、小島両河内16.0%、由比15.8%

3 人口 | 10年間で人口は15.4%減、世帯数はほぼ横ばいです

1世帯当たり人数は2.19人。小さな世帯向けの商品・配達・生活支援を考える材料です

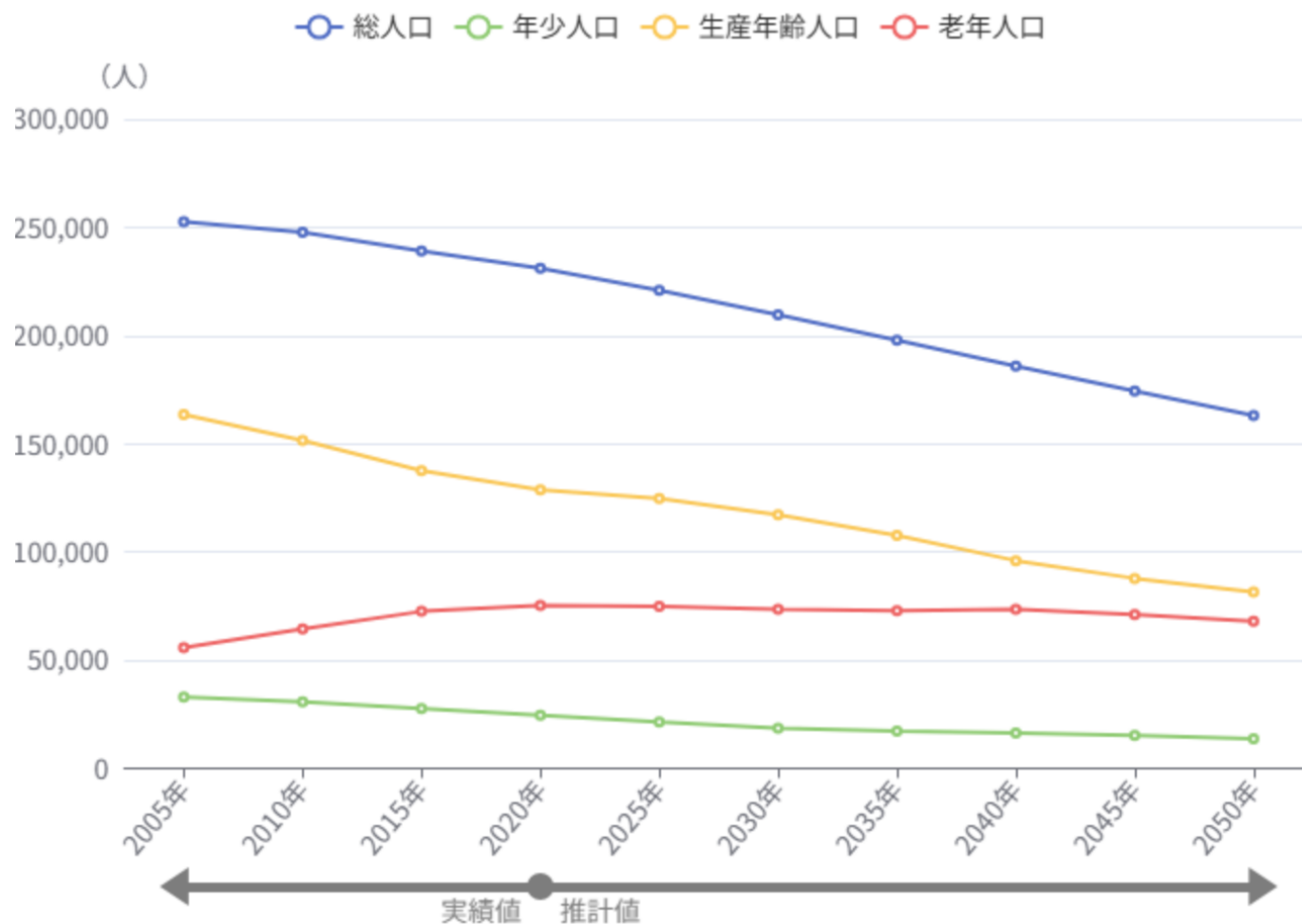
地区	人口 2015	人口 2025	人口増減	世帯 2015	世帯 2025	世帯増減	人／世帯
庵原	9,749	8,479	-13.0%	3,547	3,689	+4.0%	2.30
興津	12,892	11,362	-11.9%	5,232	5,263	+0.6%	2.16
小島両河内	8,767	7,018	-19.9%	3,410	3,292	-3.5%	2.13
蒲原	11,798	10,029	-15.0%	4,647	4,617	-0.6%	2.17
由比	8,555	6,898	-19.4%	3,143	3,145	+0.1%	2.19
5地区計	51,761	43,786	-15.4%	19,979	20,006	+0.1%	2.19

小島両河内・由比では人口減少が約2割。世帯数の減少は人口ほど大きくありません。

3 人口 | 清水区の総人口は、2050年に約16万人まで減る見込みです

7

5地区の実数ではありませんが、客数と働く人の長期的な方向を考える参考になります



グラフから分かること

2020年の約23万人から
2050年は約16万人へ減
る見込みです。

特に15～64歳の生産年齢
人口が大きく減ります。

経営に生かすには

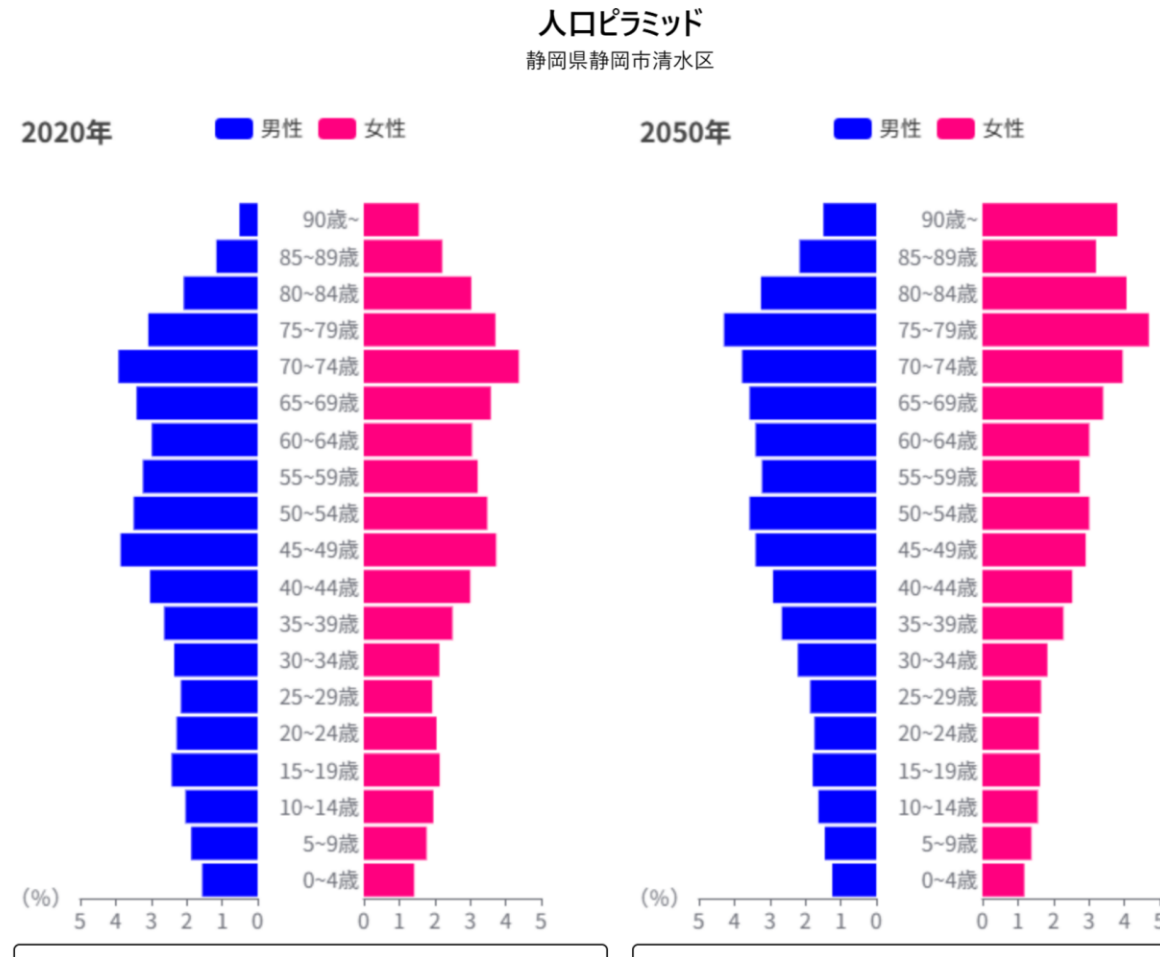
地域内の客数と働き手は減
りやすくなります。

地域外販売、再購入、予
約・配送、省力化、事業承
継を早めに準備します。

3 人口 | 65歳以上の割合は、2020年32.59%から2050年41.64%へ上がります

8

高齢者向け需要が増えやすい一方、採用・事業承継・省力化が重要になります



グラフから分かること

65歳以上の割合は9.05ポイント上がります。
15~64歳は128,647人から81,423人へ減る見込みです。

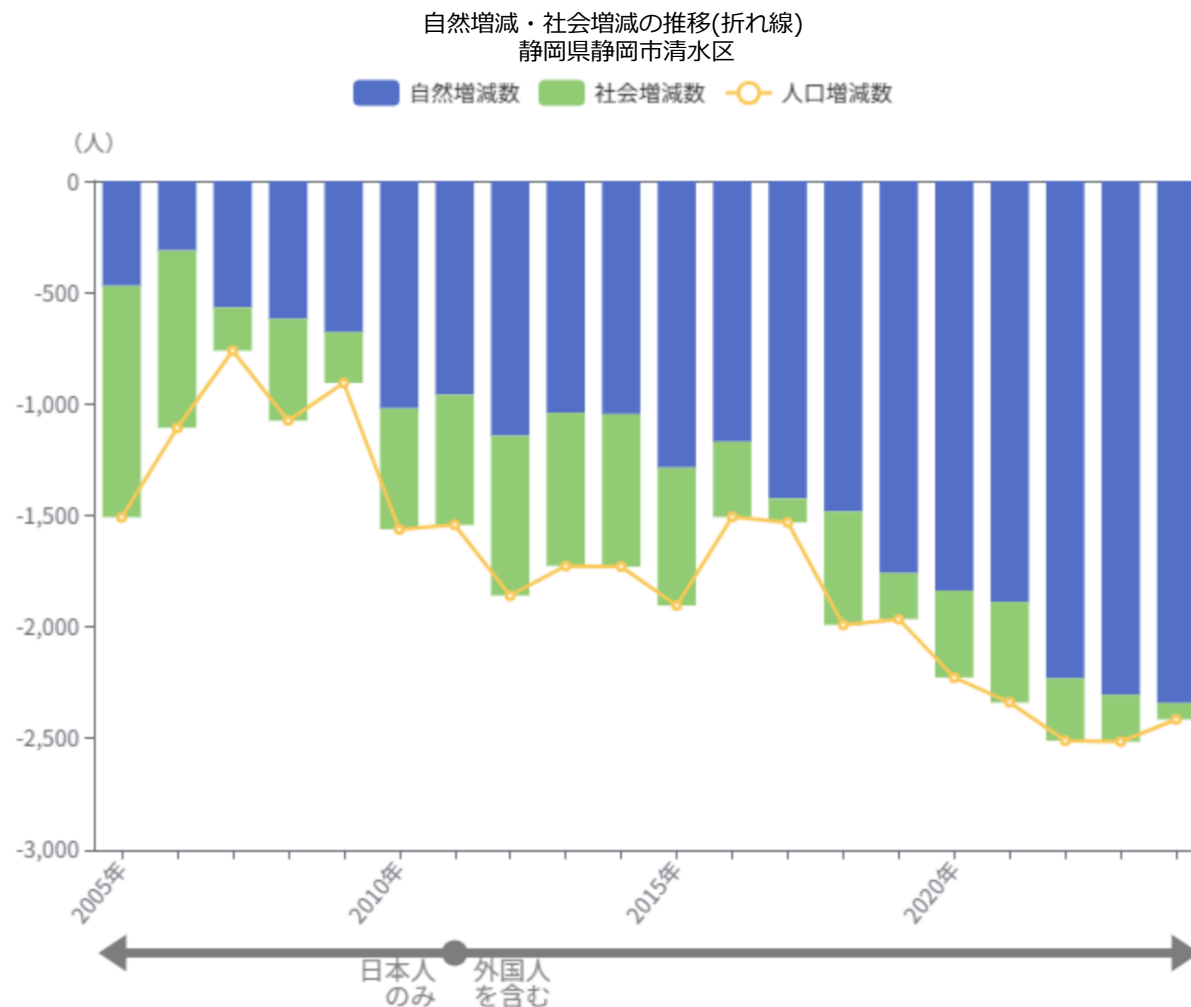
経営に生かすには

見やすさ、少量、配達、相談のしやすさを見直します。
採用だけでなく、作業の標準化と後継者・事業承継も進めます。

3 人口 | 人口減少は、出生数より死亡数が多い『自然減』が中心です

9

清水区では自然減と社会減が重なり、人口の減少が毎年積み重なっています



グラフから分かること

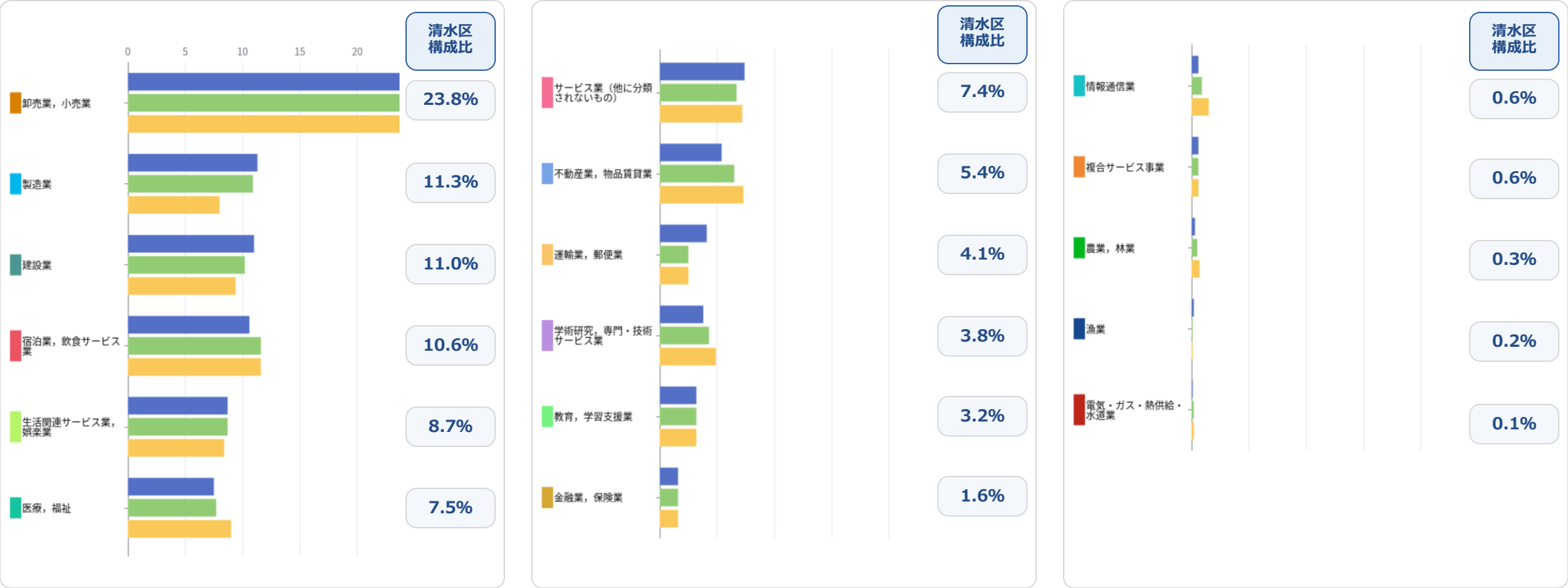
出生数より死亡数が多い状態が続いています。転入より転出が多い年も多く、人口減少を強めています。

経営に生かすには

客数が増える前提を置かず、1人のお客様との関係を深めます。客単価、再購入、紹介、地域外販売を組み合わせます。

4 産業構造 | 清水区では卸売・小売が23.8%で最も多いです

青が清水区、緑が静岡県、黄が全国。右側に清水区の構成比（%）を表示します

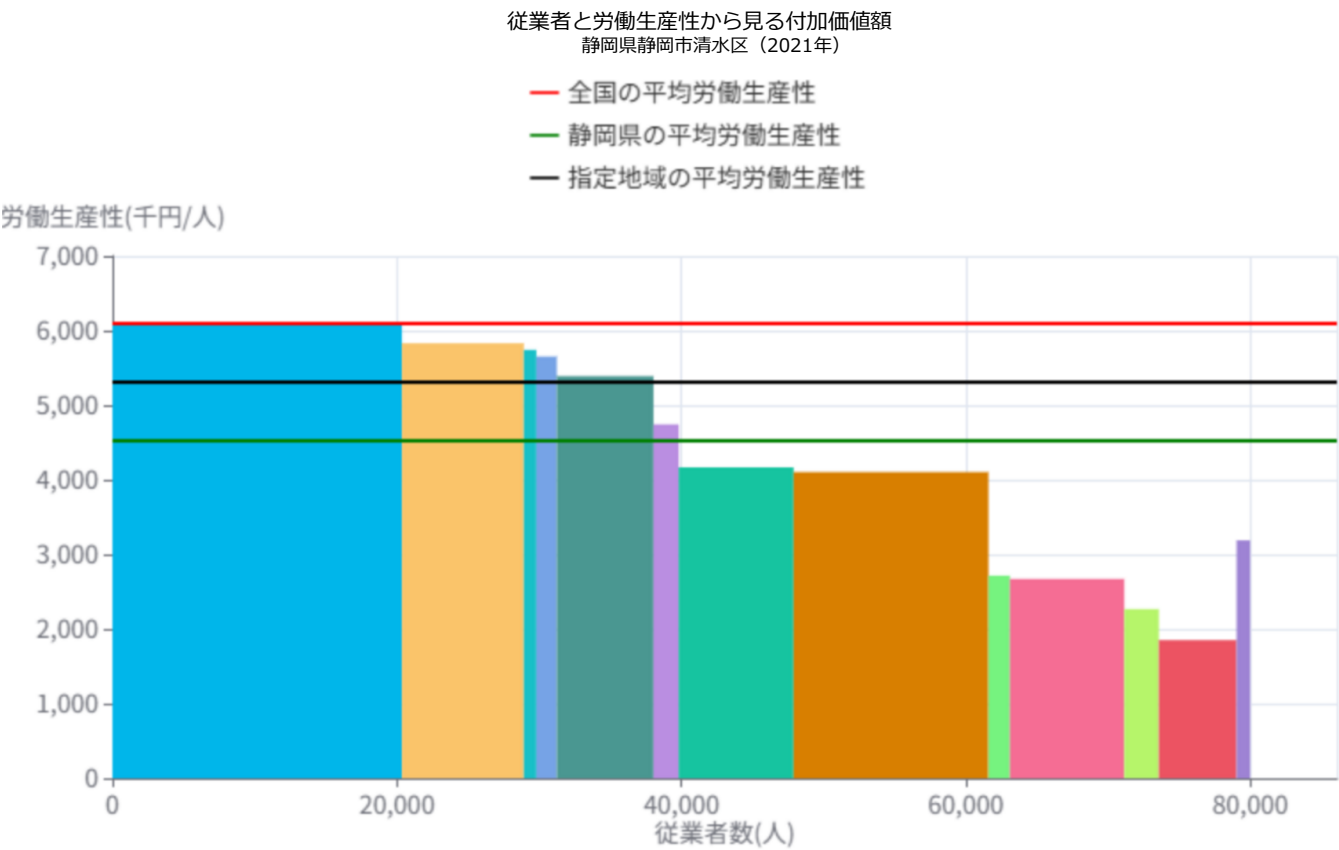


分かること：卸売・小売23.8%、製造11.3%、建設11.0%が上位

活かし方：営業先・仕入先・連携先を業種別を探す

出典：RESAS（地域経済分析システム）産業構造分析（清水区、2021年）を加工して作成

付加価値額とは、企業が原材料や外部サービスなどの購入費に、自社のノウハウや労働力（社内資源）を加えて新しく生み出した価値のことです



幅＝従業員数／高さ＝1人当たり付加価値／面積＝付加価値額

主な産業の付加価値額（百万円）

産業	付加価値額
製造業	124,233
卸売・小売	56,236
運輸・郵便	50,001
建設業	36,634
医療・福祉	33,654
その他サービス	21,495
宿泊・飲食	10,123
学術研究・専門技術	8,426
不動産・物品賃貸	8,123
生活関連・娯楽	5,512
情報通信	5,076
教育・学習支援	4,098
その他	3,026

公表値のある主要業種を掲載。秘匿・欠測値は除外。

5 観光地（滞留人口メッシュ） | 人が比較的多くいた場所を色で示します

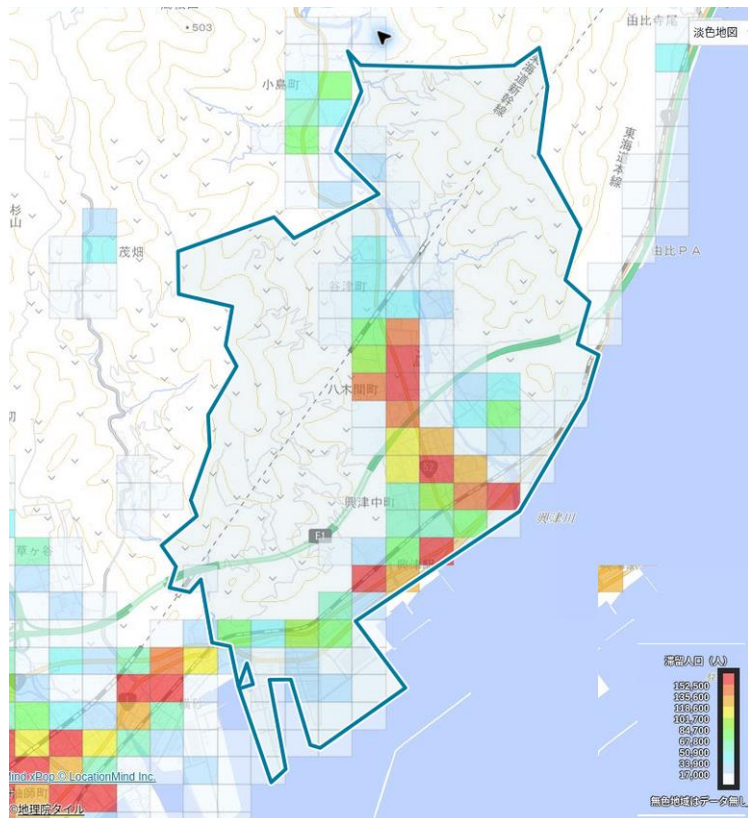
来店者数や購入額ではありません。曜日・時間帯・目的は自社で確かめます

地区	滞留が見られる場所	商売で確かめる需要
興津	駅・国道・市街地	通勤・生活・立寄り
庵原	住宅・道路・事業所	平日・法人・生活
小島両河内	国道52号・集落	予約・配送・目的地
由比	駅・本陣・海側	食・体験・再購入
蒲原	駅・市街地・沿岸	通勤・生活・イベント

濃い場所を確認 → 時間帯と目的を聞く → 商品・営業時間・予約・配送を試す → 売上で確認

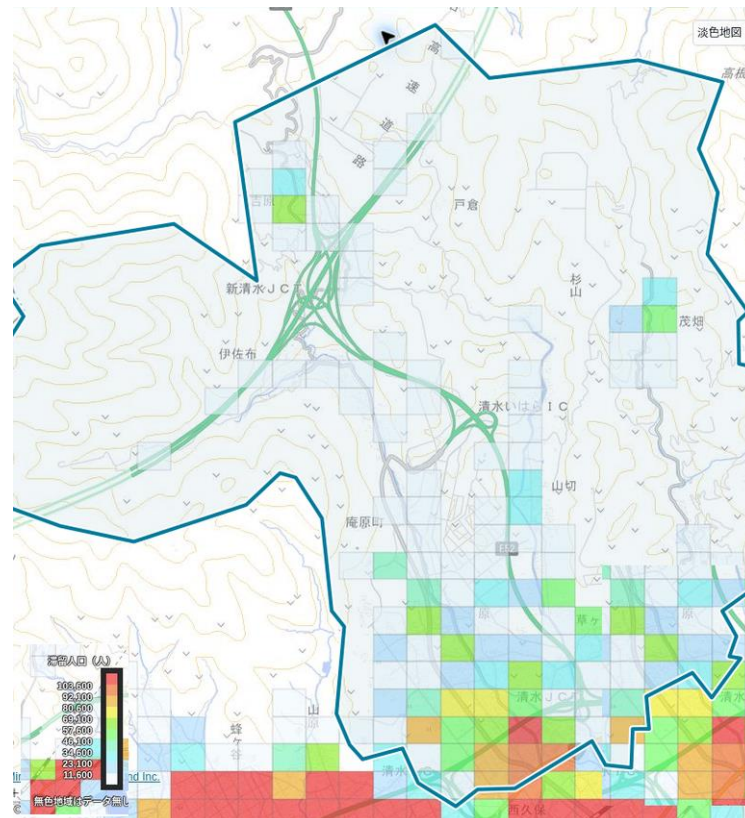
駅・道路・住宅・事業所の需要を分けて見ます。色の基準値は図ごとに異なります

興津地区



興津駅・国道52号・河川沿い：時間帯別の需要を確認

庵原地区



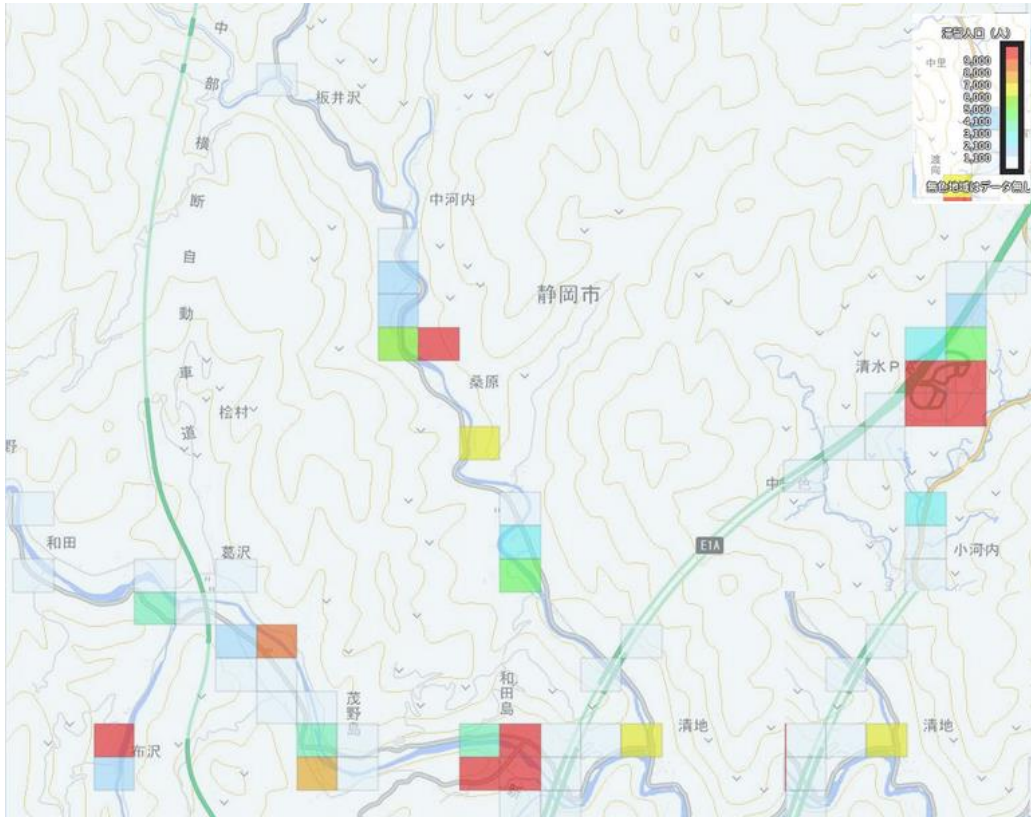
庵原・清水JCT周辺：住宅・事業所・道路利用を分ける

5 観光地（滞留人口メッシュ） | 小島両河内の滞留は、集落・道路沿いに点在します

14

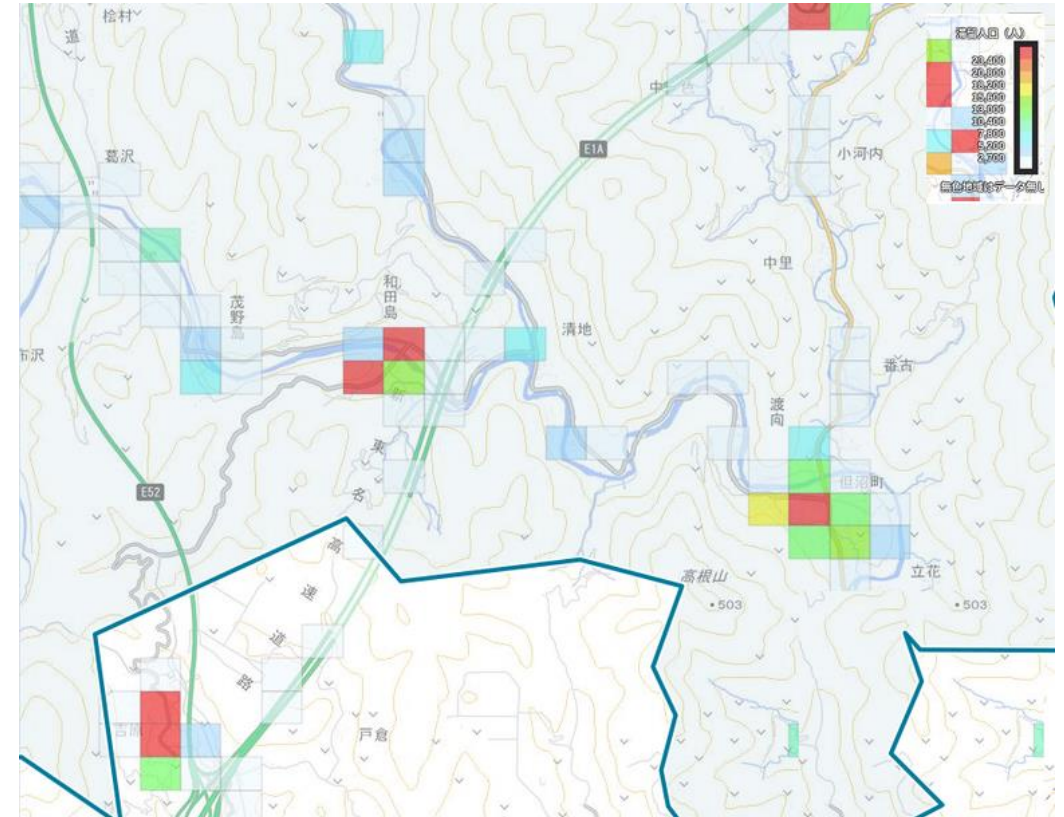
北部・南部に分けて拡大しました。色の基準値は同じ画像内の凡例で確認します

小島両河内・北部



清水PA周辺・栗原方面：立寄り・通勤・生活需要を確認

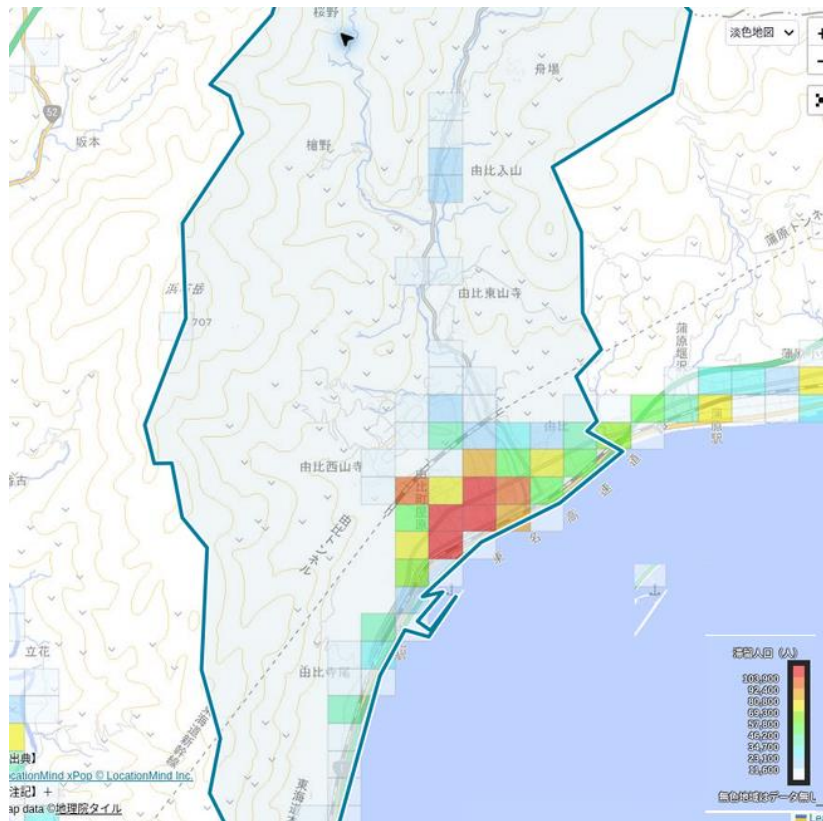
小島両河内・南部



和田島・但沼・小島方面：予約・配送・目的地化を検討

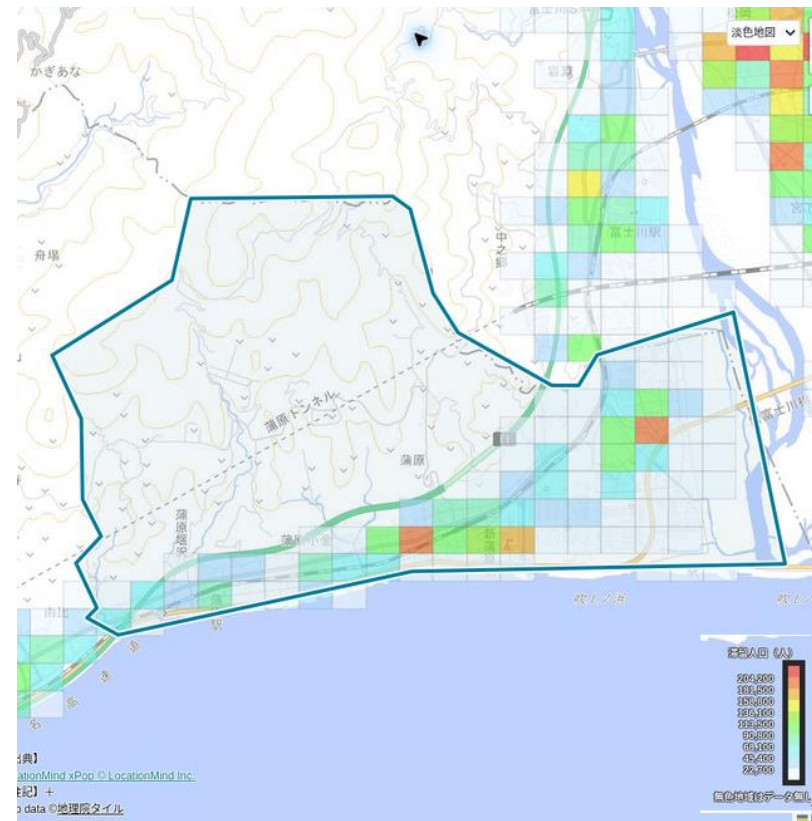
駅・市街地・沿岸部の需要を分けて見ます。由比と蒲原の色の濃さを直接比較しません

由比地区



由比駅・本陣・海側：食・体験から再購入へつなぐ

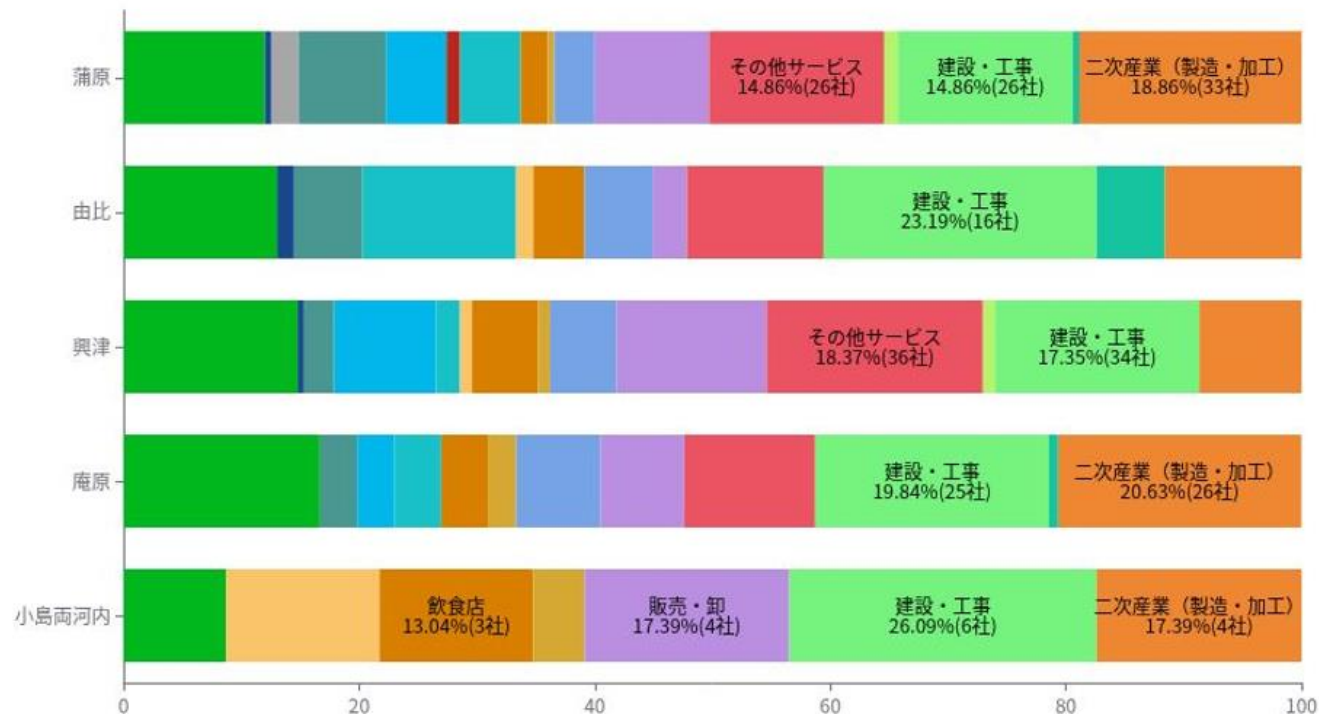
蒲原地区



蒲原駅・新蒲原駅・沿岸：通勤者と住民を分ける

6 マーケティングマップ | 町字コード指定の5地区を比較します

横棒は事業所数の割合です。2025年、蒲原・由比・興津・庵原・小島両河内の5地区です



グラフの見方

横幅が広いほど、その地区に占める事業所の割合が高いことを示します。太い色を、営業先・連携先・競合の候補として確認します。

色の説明（事業所の大分類）

- | | | | |
|------------------|--------------|-------------|-----------|
| ■ 官公庁・団体・福祉 | ■ 不動産・賃貸・展示場 | ■ スポーツ・レジャー | ■ 出版・印刷 |
| ■ 電気・ガス・通信・放送・新聞 | ■ 学校・文化 | ■ 自動車・二輪車等 | ■ 建設・工事 |
| ■ 金融・保険・証券 | ■ 旅行・観光・宿泊 | ■ 販売・卸 | ■ 農林水産・鉱業 |
| ■ 交通・運輸・倉庫 | ■ 飲食店 | ■ その他サービス | ■ 製造・加工 |
| ■ 医療・薬・保健衛生 | | | |

人口減少が続く一方、地域の産業、人の集まる場所、事業者同士の連携に機会があります

地域経済

循環率は103.6%ですが、民間消費の支出流出入率は－14.6%です。地域で価値を生む力はある一方、日常の買物などでお金が地域外へ出る傾向があります。

人口・世帯

5地区の人口は43,786人で、10年間に15.4%減りました。一方、世帯数は20,006世帯でほぼ横ばいです。客数の減少と小さな世帯への対応が同時に必要です。

年齢・働き手

2050年の清水区は、65歳以上67,907人（41.64%）、15～64歳81,423人（49.92%）となる見込みです。高齢者向け需要が増える一方、人手不足と事業承継が課題になります。

産業構造

清水区では製造業の付加価値額が124,233百万円と最大です。卸売・小売、製造、建設などが地域を支えています。多い業種は地区ごとに異なります。

人の動き

滞留は駅、国道、市街地、集落などに分かれています。地図の濃さは売上を表さないため、曜日・時間帯・滞在目的を自社で確かめることが必要です。

以下は取組例です。自社の業種・顧客・人員に合わせ、実行しやすいものから検討します

地区別の活用例

興津：駅・国道周辺の通勤・生活需要に合わせ、朝夕の商品、受取、配達を検討する。

庵原：製造・建設が多い特徴を生かし、法人向け消耗品、保守、外注連携を探す。

小島両河内：人口減少と点在する滞留に対応し、予約販売、巡回配送、目的地になる商品を考える。

由比：駅・本陣・海側の動きを、食・体験・土産からECや再購入へつなげる。

蒲原：住民・通勤者向け商品と、建設・製造・販売事業者との共同企画を検討する。

全地区共通の活用例

- ・既存客を地区・年代・購入目的で整理する
- ・地域外売上と地域内の仕入・外注を把握する
- ・粗利額÷作業時間で商品と仕事を見直す
- ・予約、配達、EC、紹介から自社に合う方法を選ぶ

検討するときの確認点

誰に：住民、通勤者、事業者、来訪者

どこで：店舗、訪問、配達、EC、イベント

何を：少量、予約、法人向け、体験、再購入商品

確認：売上、粗利、客数、作業時間を取組前後で比べる